

## 巻頭言

## 断層映像診断学－最新の話題

大島 統男  
Guest Editor

この度、町田編集委員長より本誌のguest editorのご依頼を受けました。今回は、断層映像に関する最新の知見を各分野のexpertの先生方にお願ひし、ご執筆していただくことにしました。

内容を分類しますと、SPECT関係1題、PET関係2題、中性子ラジオグラフィ1題、の計4題となりました。簡単にご紹介しますと、

①放医研の吉川京燦先生には、

日本で最初に導入され、日本で1号機となった、Siemens社製CT付PET装置による基礎的および臨床的検討をまとめていただき、CT付PET装置 (PET-CT) と腫瘍診断、と題してご執筆いただきました。この装置はPETとCTが一体化した新しいタイプのPET装置であることから吸収補正や画像の重ねあわせができる点において注目されている機器であります。

②三重大学の留森貴志先生には、

FDG-PETの画像における、吸収補正の影響に関する検討、即ち病変の検出率の比較について、臨床例を中心にまとめていただいた、貴重な論文です。これは西台クリニック在職中のお仕事であります。尚、留森先生には今年2月6日不慮の事故に遭遇し、お亡くなりになりました。本論分は遺稿となってしまいました。ここに謹んで哀悼の意を表します。

③筑波大学の土屋佳則先生には、武田 徹先生と共著で、

中性子ラジオグラフィによる生体組織イメージング、と題し、研究の成果をご執筆いただきました。まだ、基礎研究の段階ですが今回は特に、ウサギ大腿骨の中性子CT画像が掲載されていて、骨表面と骨内部が明瞭に区別され描出されています。大変貴重なデータであり、今後の画像診断のひとつの方向を示すものと思われます。

④神戸市立中央市民病院の竹内 亮先生には、

脳血流定量SPECT画像の解析についてご執筆いただきました。先生は、豊富な臨床例を基にした脳血流SPECTの定量画像研究の第一人者でありまして、既に多くの英文の論文がございますが、今回は、特にご自身が開発されました、脳関連画像全自動ROI解析ソフトウェア；3DSRT、についてご執筆していただきました。

ご執筆いただきました各先生方にはお忙しい中、本企画にご協力いただきまして誠に有り難う御座いました。尚、昨今の経済的事情を反映し、年間の発行号数が減り、投稿後本誌掲載までの時間が長くなってしまいました事を深くお詫び致します。最後に、本企画が読者の先生方にご満足いただけますことを心から願ひます。

(春日部市立病院 放射線科部長)